

■米カリフォルニア州における農業の最新事情

アメリカ CSA・ファーマーズマーケット研究会には、私（農村計画部 集落機能研究室 主任研究員 唐崎卓也）を含め、日本から日本学術振興会議の科研費基盤研究B（代表：東京農工大・野見山敏雄教授）の研究担当者が参加しました。今回、カリフォルニア州内のサンフランシスコからロサンゼルスに移動しながら、3つの CSA（Community Supported Agriculture）農場と、4つのファーマーズマーケット（FM）を訪問し、研究会の参加者が合同で、現地の生産者や担当者に聞き取り調査を行いました。

今回訪問した CSA 農場は、（1）農業体験の場を提供し、小学校と連携することで会員を拡大している、（2）カバークロップを入れて輪作することで有機栽培による持続的な農業を実践している、（3）消費者に毎週配達する野菜ボックスにニュースレターを入れて情報発信に努めているなど、それぞれ特色ある経営を行っていました。

一方、FM は、都市部の公園や街路を利用して、お祭りのようなエンタテイメント性のある展開を見せていました。こうした FM は、多数の NPO 法人が運営や企画に関わることで支えられていました。また、日本の直売所の場合、生産者は店舗に農産物を納入したあと、消費者と対面することはあまりありませんが、FM では農家自身がそれぞれのブースで直接販売するため、消費者との密なコミュニケーションが見られました。このように、日本の直売所とは違う企画・運営の仕組みと個性的な経営が、日本の直売所にはない魅力を産み出していると感じました。

今後の日本における地域振興や生産者と消費者との交流のあり方を考える多くのヒントを与えてくれ、また、アメリカの研究者との交流の輪が広がるなど、充実した調査になりました。



CSA 会員に届ける野菜ボックス



エンタテイナーがギター演奏する FM